

# 第1章

# 地域支援プロジェクトとは

## 1. 地域支援プロジェクトの概要



鹿児島大学大学院臨床心理学研究科は、高度専門職業人としての臨床心理士を養成する専門職大学院の中でも、我が国初の独立研究科として2007年4月に設立されました。

2010年度から2012年度にかけて、さらなる臨床心理実践教育の充実を目指して、特別教育研究経費プロジェクト（文部科学省）として、「地域支援の臨床実践と実務教育を架橋した新たな『実践型教育プログラム』の開発」を行いました（愛称：地域支援プロジェクト）。

本事業では、教員と学生が協働して様々な地域に出向き、講演会・研修会・事例検討会・相談支援といったデリバリー方式によるアプローチを行い、専門職大学院としての新たな地域貢献の形を提案すると同時に、地域支援実践が行える臨床心理士の養成を目指した教育プログラムを開発してきました。また、地域支援の窓口として、「専門職大学院支援室」を司法政策研究科と共同で設置し、地域支援プロジェクトの運用体制を整備してきました。

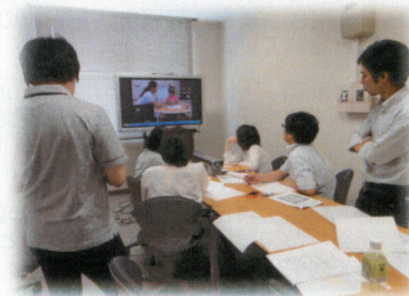
遠隔地・離島支援を含み、支援対象1,034名、参加学生54名、18回を数える支援活動というユニークな地域貢献が評価され、2013年度も学長裁量教育経費の支援を得て、本事業は継続されています。2012年に文部科学省プロジェクト終了後、地域支援プロジェクトは臨床心理学を基盤とした地域支援の臨床実践と実務教育の架橋につながる全ての地域支援活動を含み込む形で発展的に継続しています。



大学



地域



MIT

(Mobile Information and Communication Technologies)



## 2. 本プロジェクトの目的と実施体制の紹介

### 1) 目的

本研究科は、ティーチング・クリニックである心理臨床相談室における学内実習、そして、教育・福祉・医療領域における2年間で3箇所以上の学外実習を柱とした、高度専門教育を行っています。

実習においては、実習施設内に勤務する臨床心理士が実習指導にあたり、相談者が自発的に相談機関を訪れる来談形式による心理面接を中心とした臨床心理教育が行われてきました。

しかし、近年の心理臨床においては、来談形式だけではなく、専門家が実際に地域に出向き心理臨床的支援を行うことが求められています。

そこで、この新しいニーズに対応すべく、機関や地域に出向き、実際に求められる実践的臨床技能を育成する臨床心理教育のあり方を真剣に問うことになりました。

実践的臨床技能とは、①個人、集団を見立て、②個人、集団への援助方針を立て、③キーパーソンを特定し、④他職種、組織との連携を行える能力を指します。

本事業の目的は、実践的臨床技能を有する臨床心理士育成のために、来談形式を超えて、実際に心理臨床家が地域に出向き心理臨床的支援を行うという、地域支援の実践と実務教育をつなぐ“架橋”をつくることです。

多くの方々のご理解とご協力を得て、「地域支援プロジェクト」は、地域支援においては、臨床心理士のみならず地域専門職への支援、当事者支援、行政機関への助言、学生の地域就職が実現し、実践的教育においては、実践技術教育のコンテンツ化・セット化・マニュアル化、MICT (Mobile Information and Communication Technologies: 携帯情報伝達技術) のトライアルが行われました。

### 2) 実施体制

2013年度は、統括責任者の松木繁研究科長の下、以下のように組織編成されました。

本組織編成に基づき、教員スタッフによる地域支援実践を本プロジェクトの活動として実施しました。また、これまでの地域支援プロジェクトの継続活動のなかで院生が地域の中で発達検査を行う体制を整えたり、専門職大学院カリキュラムと連動した活動にも取り組みました。

役 割		担当者
統 括		松木 繁
		中原 睦美
プロジェクト スタッフ	プロジェクトの 企画・進行など	土岐 篤史 (リーダー)
		服巻 豊 (コ・リーダー)
		小澤 永治
		川口 智美
		江口 夏紀
プロジェクト 教員メンバー	プロジェクト 運営など	安部 恒久
		金坂 弥起
		小山 憲一郎
		松浦 隆信
プロジェクト 支援室	支援活動の 実施準備など	山中 寛
		川口 智美
MICT運用	MICTの活用	江口 夏紀
		土岐 篤史
		小澤 永治
		小山 憲一郎